

## 応募校・研究テーマ一覧

### 【天童市立 寺津小学校】

5年1組／寺津の魅力をPRしよう

### 【朝日町立 大谷小学校】

5年生／みんなスミル大作戦

### 【西川町立 西川小学校】

6年／月山和紙を見つめて

### 【朝日町立 朝日中学校】

第2学年／LIVE in ASAHI～朝日町と私たち～キャリアスタートプロジェクトCareer Start Project  
朝日探究プロジェクト2 Research on Asahi Project 2

### 【舟形町立 舟形中学校】

舟形中学校第2学年／発信!“舟形町の魅力”

### 【山形県立 新庄北高等学校】

2年 杉山 凜・遠藤 隆人・菅 悠介・阿部 璃子・庄司 陽菜／新庄の商店街は新庄のアメ横になれるのか  
2年 沼澤 愛・鈴木 美羽・富樫 帆賀／新庄市の過疎化を食い止めるには  
2年 小松 真緒・佐久間 萌／多文化共生を考える～新庄国際化プロジェクト～  
定時制／「魅力あふれる学校づくり推進事業」

### 【山形県立 東桜学館高等学校】

會田ゼミ／外国人労働者により山形県の労働問題は解決できるのか  
井上ゼミ／農業人口減少!! 東根市に求められているものは?  
菅ゼミ／「地域の食材を生かしてつくるフリーズドライスープ」  
兼子ゼミA／村山市における産後ケアの課題とは  
兼子ゼミB／少子高齢化が進み、衰退していく村山市を変えるためにアピールポイントを作りたい。  
鬼海ゼミ／ゆるキャラで山形県の良さをアピール、発信していくためにはどう活用していけばよいか  
山口照ゼミ／山形に力を!AIDAの法則

### 【山形県立 新庄神室産業高等学校】

課題研究「食品製造」 伝承豆研究班／伝承豆を守れ!～次世代への継承を目指して～

### 【山形県立 米沢興譲館高等学校】

米沢興譲館高校SSクラブ／環境DNAを用いた特定外来生物の山形県生息域マップ作成  
米沢興譲館高校CSSC／山形県から全国へ!最先端技術の発信～筋肉をつくる～

### 【山形県立 置賜農業高等学校】

農業クラブ／地域と共に歩む置農

### 【山形県立 庄内農業高等学校】

生物環境科3年 課題研究 農福連携研究班／教育資源を活用した農福連携プロジェクトの取り組み

本実践記録集の資料を山形県教育庁ホームページで閲覧できます。「ふるさと探究コンテスト」で検索  
発行者/山形県教育庁総務課 (山形市松波2-8-1 TEL.023-630-2692)

平成30年度 山形県「郷土愛を育む活動推進事業」

# 郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト実践記録集

山形県教育委員会





山形県教育委員会では、「人間力に満ちあふれ 山形の未来をひらく人づくり」を基本目標とする第6次山形県教育振興計画において、基本方針の一つに「郷土に誇りを持ち、地域とつながる心を育成する」ことを位置付けています。

私たちは、皆さんが、郷土山形について主体的に調べ、地域の方々と交流しながら学ぶ活動を通してふるさとのよさに気づき、ふるさとへの愛着と誇りをもってほしいと願い取組みを進めています。その取組みの一つが、平成28年度から実施し今年度で3回目となる「郷土Yamagataふるさと探究コンテスト」です。

今年度の最終審査会でも、小学生のポスターセッションから中学生・高校生のプレゼンテーションまで、充実した発表が展開されました。地域の特色に根ざしたテーマ設定と的確な課題解決方法の選択、成果・課題の整理と聞き手を意識したわかりやすい発表まで、小学生・中学生・高校生の発達段階に応じた探究型学習の成果が披露され、質の高いコンテストとなりました。

そして、今年度初めて、県立山形西高等学校の放送部の皆さんから、最終審査会の司会・進行を務めていただきました。若さ溢れる爽やかな声で、発表校の意欲を高め、それぞれに工夫した点なども引き出していただくなど、見事な司会・進行でした。

県内の小・中・高等学校の児童生徒の皆さんと先生方にはこの実践記録集をぜひお読みいただき、これからの学習のさらなる充実・発展に役立てていただければ幸いです。

最後になりますが、3年間引き続き本コンテストの審査員となっただき、小学生・中学生・高校生それぞれの成長に資する確かな評価と温かい励ましの言葉をいただいた沼野慈先生、堀川敬子先生、渡部泰山先生に、あらためて深く感謝申し上げます。

平成31年2月

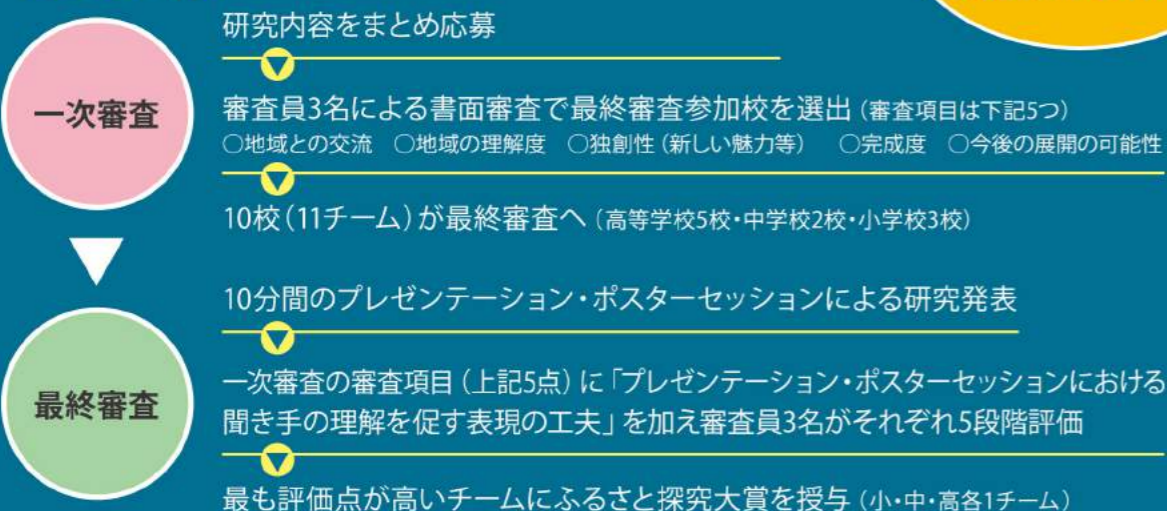
山形県教育委員会教育長 廣瀬 渉

## 「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」について

### 〈趣旨〉

小学生・中学生・高校生による、郷土に関する調査研究や地域における実践活動の成果を募集し、優れた取組みを表彰することで、自分の住む地域の自然や文化、歴史、偉人などのふるさとのよさを発見・再確認し、郷土に対する愛着や誇りを育みます。これらの作品を広く発表することで、小・中・高校生が互いの地域の良さを知るとともに、保護者や地域住民にとっても、地域の魅力を再認識する機会にします。

### 〈審査方法〉



### 【応募校数】

小学校 3校（3チーム）  
中学校 2校（2チーム）  
高等学校 6校（16チーム）

### 〈最終審査会〉

●開催日／平成30年11月17日（土）10:00～ ●会場／東根市さくらんぼタントクルセンター

### 【審査員】



#### 沼野 慈

新庄市在住。企業で食品添加物や食材の研究・特許開発に従事した経験から食の安全や女性の就労環境や子育て問題等に強く関心を持つようになり、地域活動家となる。現在、NPOもがみ理事長、地域社会デザイン研究所所長、山形いのちの電話評議員、県農村環境保全推進委員会、ふるさと創造基金運営委員、県防災会議委員、未来輝くやまがた景観賞審査員他を務める。

「最上に生きる100人の若者たち」「もがみの仕事の魅力ガイド」等発刊。

社会教育功労者文部科学大臣表彰、男女共同参画社会づくり功労知事表彰を受ける。



#### 堀川 敬子

天童市出身、山形市在住。東京からのUターン後、家業（青果物卸業）に従事する傍ら、天童青年会議所の地域づくり事業や天童商工会議所青年部の「平成鍋合戦」の実施に参画。2001年、特定非営利活動法人天童NPO支援サロンを設立し、理事および事務局としてコミュニティ・ビジネスの創出及び啓発事業、「国際ジャズフェスティバル in 天童」、「ふるさと山形塾」など各種事業に取り組む。元山形県まちづくりサポーター、山形県立博物館協議会委員、山形県地球温暖化防止活動推進委員、山形県公共事業評価監視委員会委員等、様々な役職を務める。



#### 渡部 泰山

東北芸術工科大学教授。専門分野は学校経営学、教育と芸術学。山形県内各高校で教諭、教頭、校長を務める。山形県教育庁世界遺産推進監、教育次長、山形東高等学校校長を歴任。山形大学大学院教授を経て現在に至る。新庄市都市計画審議会、山形県教員育成連絡会議、山形医療技術専門学校学校評価委員会・教育課程編成委員会等、各種の委員を務める。県内外の雑誌、新聞に教育、美術、文学、演劇に関する多くの論文を発表。『東北芸術文化の水脈』で真壁仁・野の文化賞、文部科学大臣教育者表彰受賞。『教育の森通信』『迷宮の泉』『枯木野の色』『山形現代美術館』他著書多数。新庄市に山形現代美術館開設。東北芸術文化学会所属。

### 【最終審査会ゲスト】



#### 朝倉 さや

山形県出身。民謡民舞全国大会で2度日本一に輝き、動画サイトでは民謡を取り入れたカバー楽曲が話題に。史上初山形弁の歌姫として、デビュー前から多数のメディア出演、テレビ、ラジオ、また新聞にも掲載され、その歌唱力・明るいキャラクターで聴くだけで元気が出る!と話題を呼んでいる。

2015年レコード大賞企画賞を受賞。



#### 【司会進行】山形県立 山形西高等学校

2年 村山 穂奈美 1年 保科 由紀子 1年 西田 彩乃

#### 山形県立 山形西高等学校 放送部 1年 西田 彩乃

今回、私たち山形西高校放送部を司会という大役に選んでいただき、ありがとうございました。私は学校行事以外の司会は初めてで、とても緊張しましたが、今後の放送部としての活動にも繋がる貴重な経験となりました。また、司会という特別な立場で各校の発表を拝見することができ、探究することの楽しさや大切さを改めて感じることができました。

私が特に印象に残っていることは、コンテスト出場校の皆さんが地域の諸問題に対して主体的に探究活動を行っていたことです。私はこのことに刺激を受け、これからは自分の表現力や思考力に磨きをかけつつ、様々な場面で探究することを大切にしていきたいと思いました。





## 山形県立 庄内農業高等学校

### 生物環境科3年 課題研究 農福連携研究班

今野 駿 本間 翔 菅原 健人 高橋 優



## 舟形町立 舟形中学校

### 舟形中学校第2学年

伊藤 優翔 齊藤 吏玖 伊藤 寿理  
大場 瑛斗 小西 由紀乃 沼澤 佑美



## 教育資源を活用した農福連携プロジェクトの取り組み

### 1) テーマについて

庄内農業高校の農場で、生徒と高齢者などが一緒に野菜等を栽培し、高齢者の生き甲斐づくりや参加者から生徒への作業方法の伝授などを通じた交流、学校の地域貢献を進め、暮らしやすいまちづくりにつながることを目的としました。

### 2) テーマに基づく活動について

活動にあたり、「見て食べて楽しめる農園として観光型花畑交流農園とする」「農場の生産物を福祉的に利用する」「地域イベント参加やボランティア活動を通して、私たちの活動をPRする」という3つの方針を基に平成27年度に地域福祉センターと高校との協働事業について協議を行いました。

翌平成28年度は地域交流農園事業を開始し、学校の敷地内の空き地を「地域交流農園」として、生徒と地域の高齢者や関係団体の方々が一緒になって野菜栽培と収穫を行いました。



平成29年度も同様の活動を行い、収穫した夏・秋野菜を藤島地区の一人暮らし高齢者53世帯、藤島地域の4グループホームや子ども食堂に提供しました。

そして今年度は「農園づくりのワークショップ」や遠隔地農場の未利用地等の有効利用を目的として「オーガニック農法(有機農法)・観光交流農園づくり」を行い、延べ150名の方に参加いただきました。メディアにも取り上げられ、活動のPRをする

という目的も果たせました。

### 3) これからの活動に向けて

地域連携事業の一環として実施しており、地域福祉センターとの連携をさらに深化させていきたいと考えています。また、今後はさらに農業を通じた知的障がい者の就業体験支援交流についても、取り組んでいきたいと考えています。



### 審査員 / 渡部 泰山氏

学校農場を利用した「農福連携プロジェクト」の継続的な取り組みが発表されました。地域福祉センターと高校の特色を活かした協働の学びは、生徒と高齢者の豊かな交流を軸にしながら、農・産業と福祉、学校の地域貢献の在り方のみならず、地域社会、日本の課題を見据えた、暮らしやすい地域・町づくりのモデル形成の視点からも極めて示唆に富んだ実践となっていました。



## 発信!“舟形町の魅力”

### 1) テーマについて

私たちの郷土である舟形町の魅力(さまざまな農業生産品や国宝「縄文の女神」)を再発見し、その魅力を東京都内の修学旅行におけるPR活動を通じて発信し、郷土愛を醸成するとともに、郷土の活性化と地域振興に貢献することを目的としました。

### 2) テーマに基づく活動について

これまでも町内の農家と建設業で働く3日間の職業体験学習「トライワーク(きゅうり・花・稲作・トマト・ラズベリー等)」といった活動を行ってきました。しかし、今後の地域農業を見据えると、それだけでは地域貢献という観点からは貢献度が十分とは言えないため、活動内容をステップアップするために、学習した内容を基に、地域の特産物のPRや販売体験を行うこととなりました。

PRに関しては修学旅行先の東京都港区(麻布)と協働のまちづくりを進めている舟形町役場(まちづ



くり課)の全面的な協力を得て、昨年学習した国宝「縄文の女神」の紹介を含めたパンフレット制作/配布・PR動画の上映や、手作りの「縄文の女神」のレプリカの展示、地元の伝統芸能「田植え踊り」の披露等を企画しました。そして自然豊かな舟形町で育った新鮮な農作物の即売会も行い、大変好評をいただきました。

### 3) これからの活動に向けて

一連の活動をまとめ、また新たな課題や解決策を生徒自身で構築し、来年度以降も継続して活動を行っていきたくと考えています。



### 審査員 / 沼野 慈氏

プレゼンテーションは、どの出場校も大変工夫に満ち、質の高いものでした。舟形中学校には、郷土の魅力の掘り起こしと職業体験に加えて「縄文の女神」の持つ価値との相乗効果から、町が進める協働のまちづくりに貢献する姿がありました。修学旅行をPR活動の場と位置づけ発信する活動は、郷土愛を育み生徒達の進む道や生き方を考える契機にもなっていました。

